

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

安全・安心まちづくりのための社会インフラシステム整備・活用に係る伊丹市地域再生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

伊丹市

3 地域再生計画の区域

伊丹市の全域

4 地域再生計画の目標

(地勢・歴史)

伊丹市は、兵庫県の南東部に位置し、武庫川、猪名川によってつくられた武庫平野の中心にある伊丹台地とその東部の猪名川沿いに広がる低地からなっている。古くから清酒発祥の地として酒造業が栄え、伊丹郷町として俳諧文化やなぎなたの聖地として文化人などが集まり文化が花開いた歴史がある。神戸・大阪の中間に位置することから、西国街道と有馬道の辻があり、摂津の中心地として交通の要所でもあった。

現在では、高低差の少ない平坦な地形から大都市近郊のベッドタウンとして、東西約 7.0km、南北約 6.0km、総面積は約 25 平方 km のコンパクトな市域の全域に住宅街が広がり、市内全域が DID となっており、どこにでもあるベッドタウンとして、まちの個性が消えつつある。また、伊丹空港（大阪国際空港）のあるまちとして全国的には有名であるが、空港の名称の影響もあり大阪府と間違われることが多い。

市民の交通アクセスに関しては、鉄道圏域を 500 メートルに設定した場合、鉄道空白地に住む住民が約 8 割となっており、全国でも少数となった公営である市バスが市民の重要な公共交通機関となっている。

平坦でコンパクトな地形から、自転車利用者が非常に多く、そのため、交通事故に占める自転車に起因する事故の割合は全国平均の約 2 倍となっており、平成 24 年の交通事故総合分析センターのまとめによると、人口 10 万人以上の市区の自転車乗車中の死傷者数ワースト 2 となっている。

また、本市は、神戸市・大阪市・京都市等の大都市に挟まれ、本市と隣接している、西宮市・宝塚市・尼崎市・川西市・豊中市・池田市等との住

民獲得における都市間競争にさらされている。

図1 伊丹市の位置

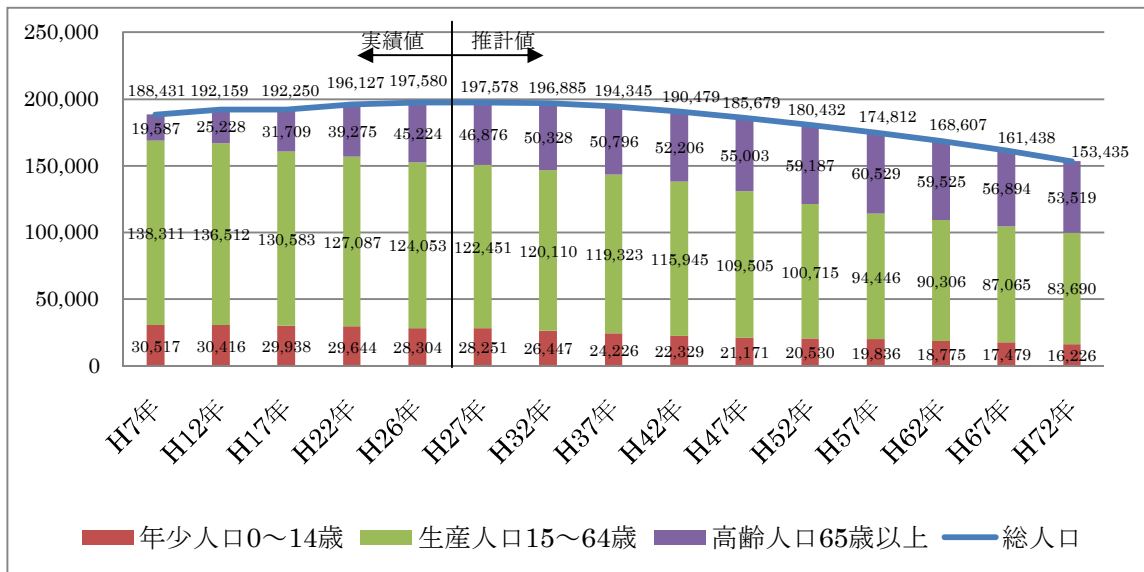


(人口)

伊丹市の人口は、197,699 人（平成 27 年 6 月 1 日現在推計）であり、現在は微増傾向にあるが、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 24 年 1 月）に準拠した推計人口では、今後、減少局面に入り、平成 72 年（2060 年）には人口が 153,435 人と 22%減少すると予想されている。

また、高齢化については、総人口に占める 65 歳以上の高齢人口の割合が 23.7%（平成 27 年 6 月現在）となっているが、今後も上昇を続け、同研究所による将来推計人口に準拠した推計人口では、平成 72 年には 34.9%を占めることが予想されている。

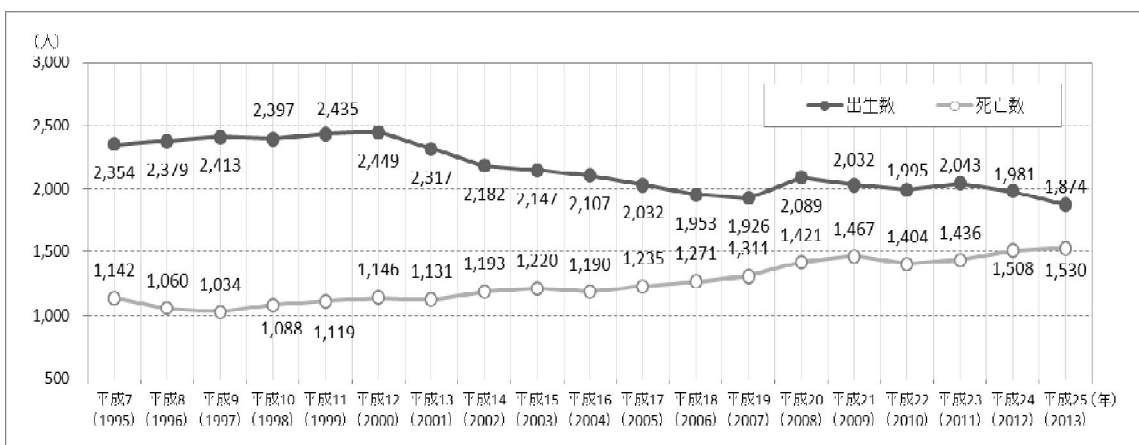
グラフ1 年齢3区分別人口の推移



※各年 10 月 1 日現在

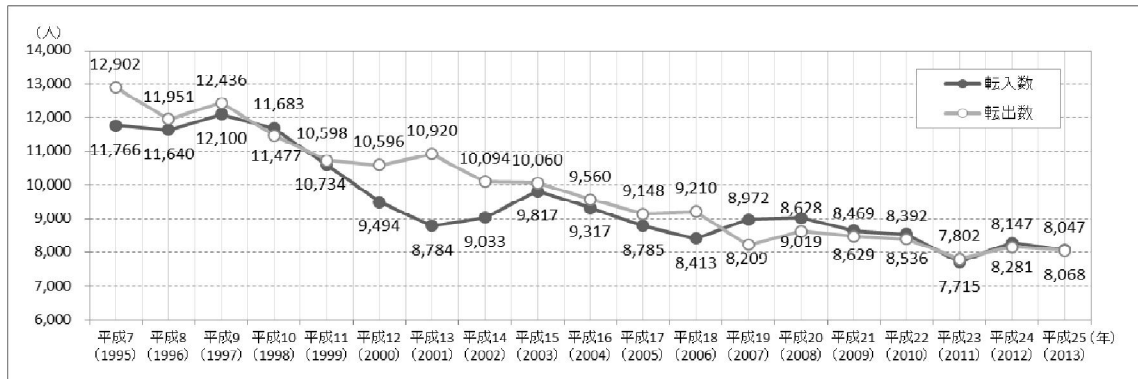
人口の推移について自然動態、社会動態を見ると、平成 18 年までは転出が転入を上回る社会減の傾向にあるが、その間一貫して出生数が死亡数を上回る自然増が続いており、安定した自然増が社会減の波を吸収し、総人口の増加を支えてきたことがわかる。しかし、平成 19 年には 763 人の社会増に転じ、その後は、転入出ともに 8,000 人前後で推移しており、平成 25 年には 21 人の社会増と微増状態にある。

グラフ2 出生・死亡数の推移



資料：地域経済分析システム(転出・転入・出生数・死亡数市区町村)

グラフ3 転入・転出の推移

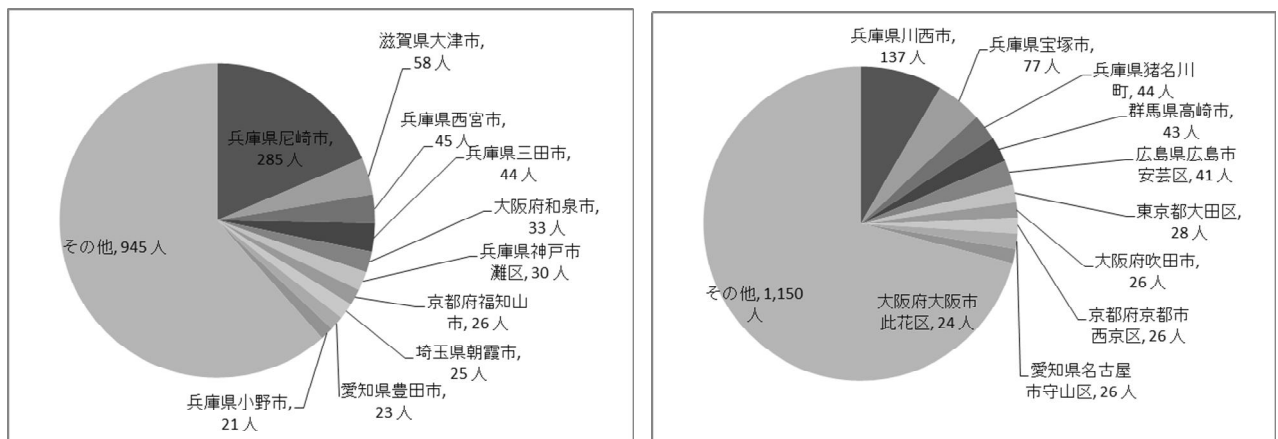


平成 26 年の転入出超過数の状況を市区町村別に見ると、転入超過数は尼崎市が最も多くなっている。転出超過数は川西市や宝塚市等周辺都市が多くなっている。これらのことから、海沿いの南側から北側へ向かって人口移動があることがわかる。また、自衛隊がある影響で、転入出ともに、自衛隊の基地のある市区町村が多くなっている。

また、総務省が実施する国勢調査（平成 22 年）において、兵庫県外から伊丹市への転入超過数は、大阪府が 1,293 人と最大になっており、伊丹市から兵庫県外への転出超過数は、東京都が 234 人と最大になっている。

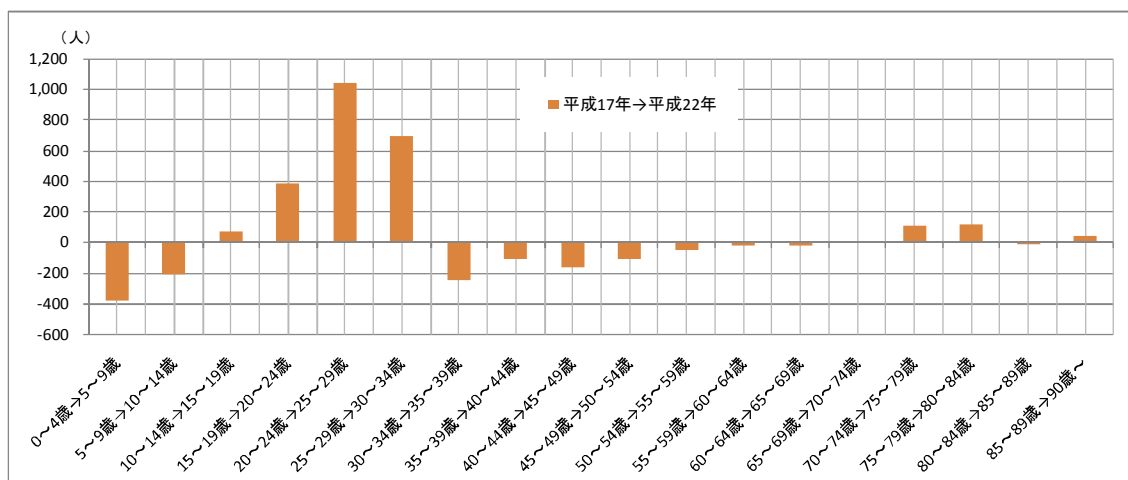
年代別の社会増減では、20 歳代が転入増となっており、2 歳～10 歳代、30 歳代半ばには転出超過となっていることから、子どもができるとより子育て環境の整った他市へ転出していることが伺える。

グラフ4 転入（左）・転出（右）超過数（平成 26 年）



資料：地域経済分析システム（人口マップ From-to 分析（定常人口））

グラフ5 年齢階級別人口移動の推移

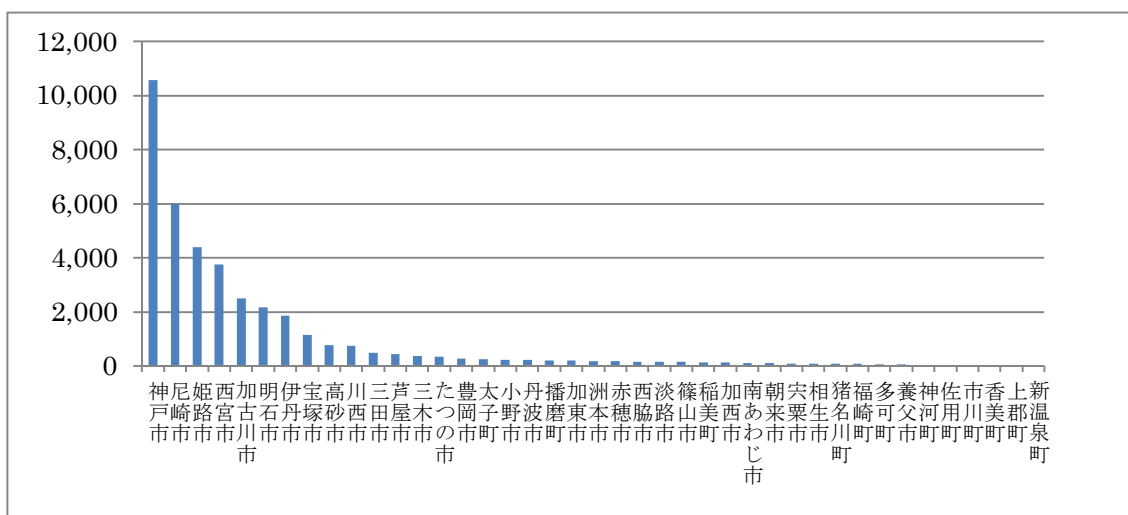


(安全・安心)

本市の治安状況については、平成 26 年度の声かけ事件等の不審者情報が 65 件、引ったくり件数 55 件、放火件数 16 件などとなっており、市民の安全・安心を脅かす事象が発生している。

街頭犯罪※1 認知件数は減少傾向にあり、平成 26 年は 1,812 件で、人口 1 万人あたり 92 件となっている。兵庫県全体では平成 26 年の街頭犯罪認知件数は 36,415 件で、人口 1 万人あたり 66 件となっていることから、本市は兵庫県内において治安が良いとは言えない。

グラフ6 兵庫県下街頭犯罪・浸入犯罪認知状況（平成 26 年）



※1 街頭犯罪…車上ねらい、自動車盗、自転車盗、部品ねらい、オートバイ盗、器物破壊等、ひったくり、強制わいせつ、自動販売機ねらい、路上強盗

表1 人口1万人あたりの街頭犯罪・浸入犯罪認知件数（平成26年）

市	認知件数	人口1万人あたり	市	認知件数	人口1万人あたり
尼崎市	6,002件	134件	西宮市	3,768件	77件
伊丹市	1,875件	95件	明石市	2,179件	75件
加古川市	2,517件	94件	神戸市	10,572件	69件
高砂市	778件	85件	宝塚市	1,162件	51件
姫路市	4,393件	82件	川西市	762件	47件

※各市、平成27年1月1日推計人口

また、本市における認知症患者は、平成15年度の1,862人から平成25年度には3,740人と、10年前に比べ2倍となっている。認知症患者の増加に伴い、徘徊高齢者も増加しており、統計的な情報は存在していないが、200名程度の徘徊高齢者が市内に存在していると推計できることから、家族や近隣住民等、相当数の市民が徘徊高齢者に対して課題を抱えている。また、警察への70歳以上の行方不明の届出は、平成26年は62件となっている。

表2 市内行方不明者数（平成26年）

年 代	9歳以下	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	全体
行方不明者数	5人	56人	30人	15人	12人	7人	13人	62人	200人

資料：伊丹警察署

（地域の課題）

伊丹市の人口は、現在は微増傾向にあるものの、人口ピラミッドの推移をみると、少子化と高齢化の進展により、子どもを産む女性の数が減少し、長期的には人口減少が予測される。

また、子育て世代の流出による人口の社会減が続いていることもあり、高齢者を支えていく生産年齢人口、年少人口が減少することが懸念されている。高齢者の増加が見込まれる中での生産年齢人口、年少人口の減少は、高齢者の増加による介護、福祉、医療などの財政負担の増加に加え、市の収入である納税額の減少を意味しており、子育て支援策など社会を維持する為の施策に活用することのできる財源の減少につながることから、まちの活力を維持する上で、大きな問題となる。

これらの課題の解消を図るためには、子育て世代を中心とした流出抑制と流入促進による人口の社会増が必要であるが、大都市近郊で個性的な都市が集積している阪神間地域においては、住民獲得における都市間競争に

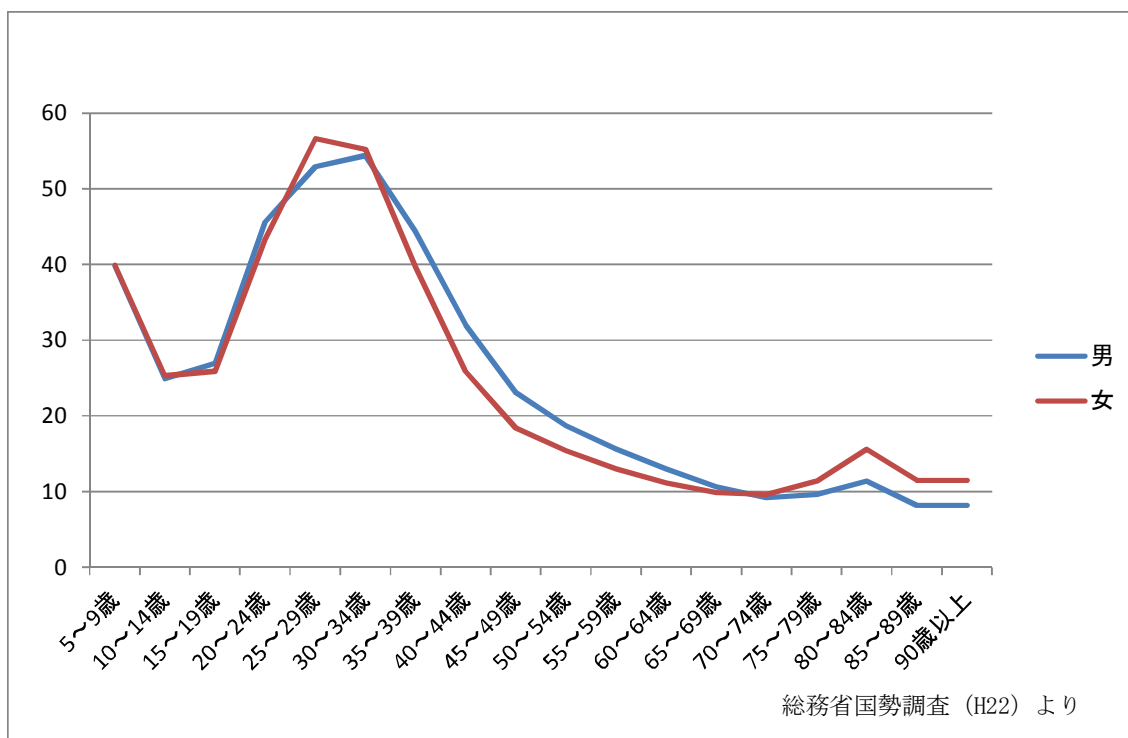
さらされており、より強くまちの個性をアピールしなければならない。

昨年と一昨年に行った市民意識調査の結果から、伊丹市は「住みやすい」、「住み続けたい」という回答が80%以上あり、市民の定住に対する満足度は高い。しかし、市外の方からは、民間で実施される「住みたいまち」のランキングなどでは、近隣市と比較し、上位にいたとはいえず、生活の拠点として選択する上での、良好なイメージを醸し出す都市ブランドの確立が課題となっている。

また、転居については子育て世代が活発であり、加齢とともに落ち着くことが総務省の実施する国勢調査（平成22年）で示されており、将来にわたっての居点を、子育て世代に選択するということが多いことがわかっている。そのため、子育て世代に選ばれ、住み続けてもらうためには、将来を見越し、子育て世代が高齢者になっても安心して住むことができるまちでなくてはならない。高齢者が安心して住むことができるまちであるためには、高齢者の増加に伴い、認知症高齢者の増加も見込まれることから、在宅生活支援などの高齢者対策に加え、認知症高齢者対策が必要である。

このような高齢者対策の結果、子どもから高齢者まで、どの世代においても住みやすいまちとなることから、生涯を過ごすことになるであろう生活の拠点選びにおいて、子育て世代の確保に直結する。

グラフ7 5歳階級男女別5年前との常住地の異なる率



(これまでの取組)

伊丹市では、生産年齢人口の増加を目指し、子育て支援や教育、医療の充実に取組んでおり、特に子育て支援については重点施策として、平成 22 年度には保育所の待機児童解消のため関西では初となる株式会社の保育所誘致や、子育て医療助成制度の拡充、平成 23 年度には、全国に先駆け学校園の耐震化率 100%を達成し、学校園の冷暖房完備などの事業に取り組んできた。

また、教育面では平成 17 年度に構造改革特別区域の認定を受け、「ことば文化都市 伊丹」事業である「ことば科」の展開、平成 23 年度に認定こども園の導入、平成 26 年度には市内の全小中学校において土曜学習の実施、市立高等学校の運営などに取り組んできた。

医療面についても、伊丹市、川西市、宝塚市、猪名川町の 3 市 1 町合同で平成 20 年度に阪神北広域こども急病センターを設立し、夜間や休日の診療体制を充実してきた。

これらの取組により、子育てしやすい環境整備を進めてきた結果、平成 27 年 6 月 1 日現在、総人口は 197,699 人と『伊丹市総合計画（第 5 次）』（平成 22 年実施）において計画した 196,915 人を上回っているが、生産年齢人口は 124,731 人と計画していたところ、実績値は 122,451 人と下回っており、平成 22 年に計画した 124,731 人と比較して 2,280 人（1.8%）の減少となっていることから、子育て世代に対する課題は依然として残っている。

平成 26 年 9 月に発生した神戸市長田区や、平成 27 年 2 月の和歌山県紀の川市で発生した児童殺害事件などをはじめ子どもが被害者となる事件・事故が全国で発生しており、子育て世代の安全・安心に対するニーズは高まっているが、伊丹市においても声かけ事件等の不審者情報が 65 件（平成 26 年度）発生しており、生産年齢人口の減少を食い止めるためには、子育て支援、教育、医療の充実だけでなく、子どもの安全・安心な生活環境の整備が必要である。

また、子育て世代が高齢者になっても安心して住むことができるまちづくりとして重要となる高齢者の見守り対策として、家庭内において急病や事故等における緊急時に、貸与されたペンダントを利用し近隣協力員に連絡が入る緊急通報システム（命のペンダント）事業や、認知症高齢者等を介護している家族に対し、GPS 機能を活用し、その対象者の居場所を家族に知らせる徘徊高齢者家族支援サービスを実施している。

緊急通報システム事業の平成 26 年度登録者数は 644 人であり、年間通報件数は 235 件と、多くの市民が活用している。

また、平成 24 年度からは、伊丹市高齢者地域見守り協定事業を開始し、新聞配達員や弁当宅配店、コンビニエンスストア等の協力のもと、普段と異なる行動をとっている高齢者を発見した時には、近隣の協力者に知らせることとなっており、登録事業者は 212 事業所（平成 27 年 5 月現在）となっている。この事業により、登録業者より 10 件（平成 26 年度）の通報があり、早期解決に寄与している。

しかしながら、徘徊高齢者家族支援サービスは、認知症高齢者に GPS 端末を持たせることが困難なため、契約者は 11 人（平成 27 年 3 月末）と少なくその利用は伸び悩んでいる。さらに、地域見守り協定事業では認知症高齢者の行動特性が複雑であり、協力者も搜索対象本人だと断定する確信がないため、声をかけられないという課題がある。徘徊高齢者の保護者は生産年齢に該当していることから、これらの課題を解決し、徘徊高齢者自身の安全やその家族の負担の軽減できる対策を図り、その発見までにかかる時間の短縮を図ることが、誰もが住みやすい、選ばれるまちとなる上で、喫緊の課題である。

（目標）

伊丹市では教育、福祉、医療、公共交通など暮らしやすさの創出に総合的に取組むとともに「安全・安心は市政の一丁目一番地」として「安全・安心なまち」づくりに重点的に取組んでいるが、人口減少時代を迎えていることから、今後の都市間競争に対し、まちの個性・魅力をアピールし、近隣都市と比べて「選ばれるまち」としてまちの個性を作り、子育て世代を中心に人口減少を食い止める工夫が必要であると考えている。

そのため、「安全・安心」を本市の個性として強く打ち出していくことで、子育て世代に、住みたいまち・住み続けたいまちとして選ばれ、人口 20 万人超と子育て世代の人口減少の抑制を目指し、まちの活性化を図る。

また、増え続ける高齢者への対応についても、社会コストを抑えつつ、高齢者や高齢者の介護を抱える世代に対し住みやすいまちとするため、住み慣れた地域で安心して暮らせる施策を展開する必要がある、これにより移住を考える人から住みたいまちとして選ばれ、人口 20 万人超とまちの活性化を図る。

本計画では、安全・安心見守りカメラ（いわゆる防犯カメラ）、ビーコン受信機などの安全・安心を実現する社会インフラを整備することで、

①子どもの連れ去り等の犯罪を抑止し、街頭犯罪認知件数の削減

②徘徊高齢者の早期発見

を実現して安全・安心なまちという都市ブランドを形成し、「選ばれるま

ち」として人口の微増傾向の継続・維持、まちの活性化を目指す。

(数値目標)

①総人口の増加

平成 26 年 197,580 人 ⇒ 平成 31 年 200,000 人

②生産年齢人口減少の抑制

平成 26 年 124,053 人 ⇒ 平成 31 年 123,371 人

※現施策のままであれば、平成 31 年の将来人口は 120,579 人。

③街頭犯罪認知件数の減少

平成 26 年 1,812 件 ⇒ 平成 31 年 911 件

④市民意識調査による「交通安全や防犯施策に対する満足度」向上

平成 26 年度 48.0% ⇒ 平成 31 年度 70.0%

⑤警察への 9 歳以下及び 70 歳以上の行方不明届出者

平成 26 年 67 件 ⇒ 平成 31 年 30 件

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

安全・安心なまちという都市ブランドを形成し、「選ばれるまち」として人口の微増傾向の継続・維持するために、さらなる「安全・安心」を実現することを目的に、市内全域において安全・安心見守りカメラを設置し、連れ去り等の犯罪抑止や事件・事故発生時の早期解決を実現する。さらに、カメラに合わせビーコン受信機を設置し、民間事業者との協働事業により、ブルートゥース発信機を見守り対象者に持たせ、カメラ画像と位置情報を連動させることで、徘徊老人の早期発見や児童生徒の居場所確認ができる社会インフラを整備する。

子育て支援対策として、社会インフラ整備とともに、見通しの悪い道路や危険な交差点の改良に努めることで子どもの日常生活における安全を確保し、その親に安心感を与える環境の整備を図る。併せて、地域の人による見守り活動を行うことで、子どもが通学路を中心とした市内全域で安心して歩くことができる「日本一安全な通学路のあるまち」を創出する。これにより、伊丹市における犯罪認知件数を減少させ、子育てしやすいと感

じる市民を増やし、子育て世代が安心して暮らせるまちを形成することで、子育て世代人口の減少を抑制する。

高齢者対策では、増え続ける高齢者により団塊の世代が後期高齢となる平成 37 年には認知症高齢者が全国で 700 万人と倍増することが推計されていることを踏まえ、万が一、認知症高齢者が徘徊した場合にも早期に発見することができる、「まち全体で認知症高齢者を見守るまち」を実現することにより、現在の高齢者だけでなく、将来高齢者になる子育て世代の人口減少を食い止める。

これらにより、まちの個性として「安全・安心」をアピールし、「選ばれるまち」を実現する。

5－2 特定政策課題に関する事項

該当なし

5－3 法第 5 章の特別の措置を適用して行う事業

該当なし

5－4 その他の事業

5－4－1 地域再生基本方針に基づく支援措置

地域再生戦略交付金（内閣府）：【B2003】

① 独自の取組として実施する事業

イ 安全・安心社会インフラ整備事業

事業概要：

安全・安心見守りカメラによる画像とビーコンによる位置情報を連携させることで、高度な見守り環境を創出する。

（１）安全・安心見守りカメラ及びビーコンの整備

安全・安心見守りカメラを市内各所に約 1,000 台整備し、防犯にとどまらず、行方不明者の捜索等に多目的利用することで、市内全域を見守り、安全・安心のまちを実現する。

また、カメラと同時に、ビーコンを整備することで、子どもや高齢者等の社会的弱者の居場所をその保護者に通知する環境を実現し、民間事業者と協働で、これまで校門の出入りだけを通知しているサービスを市内全域で実施する。

カメラの画像とビーコンによる位置情報を連携させ、子

どもが通学路を中心とした市内全域で安心して歩くことができ、また認知症高齢者やその家族が安心して住みなれた環境で暮らせる環境整備を行い、安全・安心なまちとして近隣市との差別化を図り、人口を増加させる。

(2) 市民による見守り環境整備事業

スマートフォン用の見守りアプリケーションを作成し、そのアプリケーションをインストールする市民・事業者等
の見守り協力者を募る。万が一、認知症高齢者の徘徊等が
おこり、捜索が必要な場合には、市内のビーコンに加え、
アプリケーションをインストールしたスマートフォンが、
センサーの役割を果たし、ビーコンと見守り協力者が、発
信機を持った対象者を検知する役割を果たす。これらによ
り、市民全体で捜索を可能とし、有時の際の情報伝達や、
対象者の容姿を知らなくても発見を可能とするハード・ソ
フトを連携させた仕組みをつくる。

実施主体：

伊丹市

事業期間：

平成 27 年度～平成 28 年度

② 独自の取組と密接に関連して実施する事業

イ 通学路整備事業

事業概要：

安全・安心な通行空間を確保するために、通学路に指定して
いる見通しの悪い入り組んだ生活道路を拡幅し、見通しが良く、
歩行者や自転車を含め、通行量が多くなる道路として整備する。

また、通学路に指定している道路を地域・警察・道路管理者
等で合同点検し、危険箇所を改良することで、安全・安心な通
行空間を確保する。

実施主体：

伊丹市

国の補助制度：

国土交通省所管の社会資本整備交付金事業を活用

事業期間：

平成 23 年度～

ロ 安全・安心見守りカメラ設置技術支援事業

事業概要：

安全・安心見守りカメラ設置にあたり、機種選定・設置予定箇所の画像撮影・地域説明会等の技術支援を、専門知識を持ったコンサルタントに委託する。

実施主体：

伊丹市

国の補助制度：

内閣府所管の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）を活用

事業期間：

平成 27 年度～平成 28 年度

ハ 認知症地域支援推進員配置事業

事業概要：

認知症高齢者ができる限り住み慣れた環境で暮らせるよう、医療と介護サービスの連携強化を図るため、認知症地域支援推進員を配置し、この推進員を中心として地域における認知症高齢者やその家族の支援体制を構築する。

実施主体：

伊丹市

国の補助制度：

厚生労働省所管の地域支援事業交付金を活用

事業期間：

平成 27 年度～

5－4－2 支援措置によらない独自の取組

イ 地域見守り活動支援事業

事業概要：

地域の協力により、小学生の登下校時間の見守り活動を実施し、安全・安心な通学路を実現する。

実施主体：

伊丹市

事業期間：

平成 16 年度～

ロ 青色防犯パトロール事業

事業概要：

資格を取得した市職員が青色防犯パトロール車により、児童の登下校時間に見守りを実施する。

今後は、地域団体や NPO と協働により、これまで職員だけが交代で実施していた青色防犯パトロールの充実を図る。

実施主体：

伊丹市

事業期間：

平成 16 年度～

ハ 周産期医療体制整備事業

事業概要：

医師の不足により伊丹市と宝塚市の市民病院で分娩が休止されていたが、宝塚市の協力のもと、分娩時のハイリスク出産に対応できる高度な技術を有する周産期医療体制を市立伊丹病院に整備する。

実施主体：

伊丹市

事業期間：

平成 27 年度～

ニ みんなで遊ぼう広場事業

事業概要：

子育て支援策の一環として、子どもの健全育成のため、子ども達が責任を持って、いろいろな体験を通じて創意工夫する力を養うとともに、年齢の違った子どもたちや親たちの交流の場を設ける。

実施主体：

伊丹市

事業期間：

平成 11 年度～

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況にかかる評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

7-2により掲げる手法により入手し、伊丹市政策会議（市長、副市長及び部長級以上の職員で構成）で評価する。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

	関連事業	H26	H27	H28	H29	H30	H31
総人口（人）	安全・安心社会インフラ整備事業	197,580	197,578	198,184	198,790	199,395	200,000
生産年齢人口（人）	安全・安心社会インフラ整備事業	124,053	122,451	122,681	122,911	123,141	123,371
街頭犯罪認知件数（件）	安全・安心社会インフラ整備事業	1,812	1,812	1,721	1,451	1,181	911
市民意識調査による交通安全や防犯施策に対する満足度（%）	安全・安心社会インフラ整備事業	48.0	48.0	50.0	60.0	70.0	70.0
警察への9歳以下及び70歳以上の行方不明届出者（件）	安全・安心社会インフラ整備事業	67	67	58	49	40	30

（指標とする数値の収集方法）

項 目	収集方法
総人口の増加	伊丹市推計人口
生産年齢人口の増加	伊丹市推計人口
子育て世代の人口増	伊丹市年齢別推計人口
街頭犯罪認知件数の減少	伊丹警察署からの報告
交通安全や防犯施策に対する満足度向上	毎年8月に実施する市民意識調査
警察への9歳以下及び70歳以上の行方不明届出者	伊丹警察署からの報告

7－3 目標の達成状況に係る公表の手法

本計画の評価結果については、翌年度決算時の行政評価結果公表にあわせ、議会への報告と市ホームページによって公表する。

8 構造改革特別区域計画に関する事項

該当なし

9 中心市街地活性化基本計画に関する事項

該当なし

10 産業集積形成等基本計画に関する事項

該当なし